

●年末餅つきとしめ縄づくり 22 日 25 人参加が午前 10 時に集合されました。

一昨日に臼や杵。かまど蒸し器など大型の準備物は持ち込んでおきました。当日は洗い米等消耗品の持ち込みに加えて、きな粉、餡、大根、醤油などの小物を持ち込みました、9 時に到着した早出組さんは、配置に取り組み形を整えました。全員が 10 時に集まった時には蒸し器から元気よく蒸気が噴き出ていました。お湯を臼に入れ少し温めました。最初のもちは里山の会が準備したもので、二臼つきました。播川さんと深田さんが息を合わせて見本を示しました。二臼目は眺めていた子どもたちの体験として、大きな重たい杵を振り上げてもらいました。大人用の杵を振り上げるのですが、腰が落ち着かず正確に振り下ろせませんでした。それでも力いっぱい餅をついてくれました。毎年餅まるめをやってくれる皆さんと一緒に餡餅、大根おろしやきな粉餅にして二臼とも瞬く間に参加者のお口に収まってしまいました。自分がついた餅をいろいろな形でほおぶるのは格別の味がするものです。この日は 10 臼を予定していました。約 2 時間でつき上げました。それぞれが主人公になって、持ち場で頑張ってくださいました。今年初参加の方が、数家族おられていました。この日は府営団地の今年最後の朝市が行われ、10 時半ごろには出展された皆さんも合流され、一挙に賑やかになり勢いがつきました。野菜や鮮魚などの商品も並べられ、楽しい買い物が進みました。午後からしめ縄づくりを予定していましたが、火加減の調子が思わしくなく手持ち無沙汰あって、しめ縄づくりと同時進行になりました。参加の皆さんは心得たもので、戸惑うこともなく、うまく調整してこれまで以上に大変楽しいひと時を過ごしました。何よりもお腹をつきたてのお餅が支えてくれたのが効果的でした。

●冬の昆虫観察 国蝶オオムラサキ観察 21 日(土)10 時から 里山農園 幼虫 3 匹確認

夏に一週間連続観察を行いました。昨年 12 月の調査では 1 匹しか発見出来なかったのです。しかも樹液の大木がほとんど台風で討伐されました。山全体で樹液の出ているものが少なくなる環境の大変化が見られたので、冬の観察会では発見できないのではないかと心配をしていました。エノキ群落 18 番の大木の落ち葉の裏に今年第 1 号の幼虫が見つかりました。続いて同じところで二匹目が発見されました。また移植して 5 年目のコナラの若木の根元で 3 匹目が発見されました。これは背の高さぐらいのものだったのです。オオムラサキはこの程度の環境被害は常に起きていることなので、取り巻く環境を乗り越えられる力を持っているのではないかと推察しました。何よりもこれでオオムラサキの発生群落は維持されていると安心しました。しかし環境悪化は間違いなく継続されていることが確かな出来事です。ですから若木のところで新発見されたことは、老木をあてにすることではなくて、若木の育成が効果的であることも学びました。大いにこの観点を大切に更新を図ることだと気づきました。

木津川田辺運動公園 13 時から ゴマダラチョウ 27 匹確認 6 人参加

午後からは調査場所を木津川に移しました。ここでは高さ 20m にも及ぶかという大木が数本そびえています。周囲にはヤナギの木が沢山生えています。きっと樹液が沢山出ている条件のいいところ思われました。サッカー場や野球グラウンド、テニスコートが設置されていて人々が多く賑わうところです。しかし一方自然に無関心なところでもあるのです。こうした場所で、エノキの落ち葉をめくり始めると次々とゴマダラチョウの幼虫が見つかり始めました。なんと 1 時間ほどで農園の倍近くの 27 匹が発見されたのです。参加者の全員が見つめました。付近の藪の中にはエノキの大木が無数に生育しているはずですが、優れた生育場所になっていると思われます。これまで河原なんかにはいるはずがないと思っていましたが、これだけ多くの発見が短時間にできました。素晴らしいことで、きっと国蝶オオムラサキも発見できるに違いないと確信しました。この間多くの所で巨大なエノキが無神経に多く切り倒されてきました。オオムラサキの生息が減少していると報道されているときに、少なくとも木津川に生育している榎の分布状況を調べておく必要があるのではないかと気づかされた一日でした。翌日の京都新聞に取材記事掲載されました。(23 日)

●七草摘みにご参加を 1月6日(月) 10時里山農園

例年新年最初の取組として春の七草摘みと七草粥を開催してきました。七草の採取地が木津川周辺の放棄田が採取地でしたが、徐々になくなってきました。幸いにも里山農園には大根とかぶら(スズシロ・スズナ)以外の草が自然生えしていることが発見されて、開催場所を変更しました。ここではだれにも遠慮することなく気楽に開催採取できますので、5年前から移動をしました。参加者もかなり遠くなり不便さもあって、小規模になりましたが、参加された皆さんは満足度100%だと人気を博しています。参加希望者50人と限定して、生育植物の環境を保護しながら開催しています。50人の皆さんには少し参加費をご負担いただきながら継続してゆきたいと考えております。粥のお茶碗は新鮮な青竹を贅沢に使って準備をしています。特に里山の会の焼き印を押して、ぐい飲みの盃(お屠蘇で乾杯)にも工夫をして新年を祝いたいと計画しています。時間があれば初笑いの竹の余興も満載で、新年にふさわしい取り組みにと工夫がされています。ご参集をお待ちしています。(詳しくはホームページイベント情報をご覧ください)

●黒豆味噌作りにご参加を

丹波産の黒豆(福知山市夜久野町で生産されている)を使つての美味しい味噌つくりとなっております。普通14%の塩を加えられているようですが、減塩みそとするので8%前後の使用としています。おいしくて甘くて大変喜んでいただいております。一人当たり10kgとなっておりますが、少人数家族で1年間毎日の味噌汁2人分ぐらいになっているので5kgを希望されても対応させていただくことも可能です。申し込みが8日となっておりますのは、黒豆の皮をむく準備に手間かかるためです。手間をかけた分だけおいしいものが出来上がります。また米麴はこれも夜久野町生産の現地米を使用します。水も現地の地下水なのです。高いようですがお正月の黒豆の値段と勘案していただくと随分と割安になりますよ。是非一度味噌つくりにお出かけください。問い合わせは前理事長の播川司さんまで電話090-7357-2409までお願いします

(詳しくはホームページイベント情報をご覧ください)

● 原木から切り出す炭焼体験 初日 参加者募集

ここ3年間「原木から切り出す炭焼き体験」を中止してきました。このままでは技術の伝承も難しくなりますので、今年度的一大イベントとして開催を予定しています。1月中下旬に原木を切り出して、2月下旬まで乾燥させ、太い物は適当な太さに割って、釜詰し、着火、密封、釜の温度が下がった一週間後に窯出しを行います。皆様には最低3回ご足労をおかけいたします。是非一度貴重な体験をお願いいたします。やましろ里山の会へのメールでの参加申し込みをいただければありがたいです。fddb257ybb, ne. jp 迄お願いします。

● 2019年 里山の会十大ニュースが決まりましたのでお知らせします・

選考委員は 深田三郎 大村幸正 播川司 森島保 太田敏之 金田徹 有田勉 山村武正でした。

- 1 ヤマトサンショウウオ保護の電気柵やカメラを設置・卵囊24対発見
- 2 トヨタ環境活動資金交付申請が承認決定される
- 3 週刊ニュース800号に到達
- 4 京都府交響プログラム事業申請書交付決定承認
- 5 竹割機・竹幅精製機の製作で27本の蛇籠130人で完成、中聖牛3群目完成
- 6 木津川希少種植生管理業務受注15000㎡ 39カ所
- 7 夜の生き物調べ学習会に79人殺到
- 8 蛍のタベタ立の中、動ぜず25人鑑賞に参加
- 9 理事長深田三郎さん再度登壇
- 10 親子で遊ぼう学ぼう魚とり8回計画6回実施 参加590人

特別選定 中西康太君全国生態学会(神戸大会)で発表